

事務事業名		生涯スポーツ活動推進事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進				事業期間		予算科目				
	施策名	29 生涯スポーツの振興										
	基本事業名	03 スポーツ・レクリエーション活動の振興										
根拠法令						☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 不詳 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01 10 06 01 07				
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課										
	課長名	木川田大典										
	係名	体育振興係	電話	27-3111								
	担当者	野田 学	内線	273								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)								全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
・生涯スポーツの普及、推進を図るため、各地区公民館がその住民を対象に実施するスポーツ大会など1年間の生涯スポーツ活動の経費に対し、補助金を交付する事業である。 ・補助金は、均等割、人口割をもとに予算の範囲内で各地区に配分する。 ・主な業務は、申請受付、補助金交付、精算作業である。								総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	
											都道府県支出金	
											地方債	
											その他	
											一般財源	
											事業費計 (A)	0
人件費	正規職員従事人数											
	延べ業務時間											
	人件費計 (B)	0										
	トータルコスト(A)+(B)	0										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 生涯スポーツ活動推進事業補助金の交付。 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同じ。					⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)				
					名称				単位
					ア	交付地区公民館数			館
					イ				
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 地区公民館					⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)				
					名称				単位
					カ	人口			人
					キ	交付対象事業数			回
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) スポーツ・レクリエーション活動を活発に行う。					⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)				
					名称				単位
					サ	日頃からスポーツを行なっている市民の割合(市民意識調査)			%
					シ				
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 市民のスポーツ・レクリエーションが活発に行われる。					⑧ 成果指標				
					名称				単位
					ス				
(2) 総事業費・指標等の推移									
		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	274	274	356	495	495	495
		事業費計 (A)	千円	274	274	356	495	495	495
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	24	24	24	24	24	24
		人件費計 (B)	千円	96	96	96	96	96	96
		トータルコスト(A)+(B)		千円	370	370	452	591	591
⑤活動指標		ア 館	8	7	11	11	11	11	
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ 人	39376	39117	38871	—	38938	—	
		キ 回	12	15	15	30	30	30	
		ク							
⑦成果指標		サ %	14.6	15.0	15.5	17.0	18.8	18.8	
		シ							
		ス							

事務事業ID	1014	事務事業名	生涯スポーツ活動推進事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
生涯スポーツの普及、推進を図るため、地区公民館で地区民を対象に実施する生涯スポーツ活動推進事業の経費に対し、予算の範囲内で補助金を交付する。（開始時期不明）

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
平成13年に旧三陸町と合併し、旧三陸町において行われていた同様の補助事業を、合併前のまま継続して実施していたが、平成20年度から統一した。ただし、越喜来と吉浜の2地区については、地域社会教育振興事業費補助金が地区公民館の運営内容により交付額が少ないため、町民体育大会事業補助金額を従来基準で交付している。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？
越喜来、吉浜地区からは、補助金の額や公民館の運営の違いから事業の実施方法が異なっており、旧来からの補助基準での交付を求めるとの意見がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 各地区が主体となったスポーツ・レクリエーションの振興に寄与している。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 地区公民館が一体となって取り組むスポーツ振興事業であり、公共性が高い。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 各地区公民館のスポーツ普及活動を支援し、市民のスポーツ・レクリエーション活動を活発化させる上で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 各地区公民館の活動が活発化され、事業への参加人数が増加する。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 各地区公民館で取り組むスポーツ振興事業であり、廃止・休止した場合、生涯スポーツ活動が停滞する恐れがあるため、困難である。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段, 事務事業) 越喜来、吉浜の2地区について、地区公民館振興事業補助金を他の地区と同じ基準に統一する。 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 越喜来、吉浜の2地区については、地区公民館振興事業補助金を他の地区と同じ基準に統一することにより、当該補助金についても、基準の統一が図られる。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など） 補助金を削減すると、各地区公民館での事業実施に支障がでるものと思われる。
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど） 事務は補助金の受付・支払等現状で最低限の業務のみであると考え。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 各地区の補助金については、旧三陸地区と大船渡地区で同一基準とはなっていないので、調整が必要である。

事務事業ID	1014	事務事業名	生涯スポーツ活動推進事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・各地区とも町民運動会をはじめとして、様々なスポーツ行事を開催しており、市民のスポーツ・レクリエーション活動の振興に寄与している。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 引続き各地域の体育・スポーツ行事を支援していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果

(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	生涯学習課長 木川田大典

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☒ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている
- ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☒ 一部に客観性を欠いたところがある
☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
 ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
 ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
 ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

旧大船渡市域と旧三陸町域の一部に差異がみられるが、地域事情を勘案し、その実情にあった活動支援を行う必要がある。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)
 (上記方向性に対する具体的な内容)
 現状どおり継続して事務事業を実施する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項